

新農薬の紹介

ギフアブラバチ剤

アリスタ ライフサイエンス株式会社 製品開発部

山中 聡 (やまなか さとし)

【開発の経緯】

2004年4月より(独)農研機構野菜茶業研究所(現(国研)農研機構野菜花き研究部門)にて、ギフアブラバチに関する様々な基礎的および応用的研究が着手され、ジャガイモヒゲナガアブラムシやモモアカアブラムシの天敵として有望であることが明らかとなった。その後2013年4月より農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業として研究課題「ギフアブラバチの大量増殖と生物農薬としての利用技術の開発」が採択され2015年1月20日に農薬登録(第23771号)された。

【有効成分の名称】

有効成分：ギフアブラバチ羽化成虫 250頭/ポリエチレン瓶(100ml容)(図-1)

商品名：ギフパール®

性状：類白色粒

【生物学的特性】

学名：*Aphidius gifuensis* Ashmead

分類：ハチ目(Hymenoptera), コマユバチ科(Braconi-

dae), アブラバチ亜科(Aphidiinae)

生態：ギフアブラバチは、岐阜県で採取された未同定アブラムシから羽化した個体を米国で新種と同定されて1906年(明治39年)に記載されたハチ目コマユバチ科に属する寄生蜂である。本種は日本、台湾、中国、朝鮮半島等、東アジア地域に生息し、日本国内では北海道、四国、九州、沖縄に広く分布するアブラムシ類に寄生する土着天敵であり、特にジャガイモヒゲナガアブラムシの有力な天敵である。

形態：体長は雌成虫で1.8~2.7mm, 雄成虫で1.6~2.0mm。体色は頭部が暗褐色(図-2)

寄主範囲：イバラヒゲナガアブラムシ, ジャガイモヒゲナガアブラムシ, ダイズアブラムシ, チューリップヒゲナガアブラムシ, ムギヒゲナガアブラムシ, モモアカアブラムシ, リタアブラムシが報告されている(TAKADA, 1968)。

【適用作物および適用病害虫と使用方法】(表-1参照)

【使用上の注意事項】

- (1) 本剤はアブラムシ類に寄生する天敵ギフアブラバチの寄生蛹(マミー)を含有する製剤である。



図-1 ギフパールのボトル写真



図-2 ギフアブラバチ

表-1 適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ギフアブラバチを含む農薬の総使用回数
ピーマン (施設栽培)	アブラムシ類	1~2瓶/10a (約250~500頭/10a)	発生初期	-	放飼	-
とうがらし類 (施設栽培)						